

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	2070400342		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホームさわらび		
所在地	長野県岡谷市西山1723-101 (電話) 0266-21-1113		
評価機関名	コスモプランニング有限公司		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年3月27日

【情報提供票より】 (平成20年 1月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人, 非常勤4人, 常勤換算15.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリー 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,170 円	

(4) 利用者の概要 (平成20年 1月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護 1	3	要介護 2	9			
要介護 3	3	要介護 4	2			
要介護 5		要支援 2	1			
年齢	平均	83.3 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 岡谷塩嶺病院 ・ 桔梗ヶ原病院 ・ 太田歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

諏訪湖や富士山の頂が見える小高い丘の住宅地に併設の特養があり、その敷地の入口の洒落た二階建ての家が当ホームである。協力医療機関の支援があり、夜間は当直医師の指示が得られる。また、主治医とは“オンコール”で連絡できるなど365日24時間入居者家族は安心してサービスが受けられる。そのためか入居者の表情は穏やかであり若さがある。限られた職員体制の中、計画的に研修参加の機会を作り、全職員が研修に参加するなど職員育成が熱心に行われている。同じ法人や関連法人内にはグループホームが5カ所あり、意見交換や相互交流し切磋琢磨している。入居者が住み慣れた環境の中で自分らしく暮らし続けられるように親身になって支援されている、そんな温かさが感じられるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	評価は今回で二回目である。前は特別改善点はなかったが課題があれば改善計画を作成し積極的に取り組み、サービスの質の向上に役立てる意向である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は全職員が参加し話し合いながら作成している。日々のサービス提供場面を振り返り、話し合うことで一つひとつのケアを見直す機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの活動や地域密着型サービスの説明をした上で、参加メンバーから質問や意見、要望を出してもらっている。地域に根ざした事業所となるために幅広い立場の人たちの力が必要なので運営推進会議の趣旨を理解していただき協力をお願いしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	法人全体で年一回、利用者家族の満足度調査をアンケート形式で行っている。家族などから得られた意見などは運営改善に役立てている。職員は入居者家族と信頼関係を密にし、何でも言ってもらえる関係になるよう日々努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	区費は支払っている。地区の活動は出来る範囲で参加している。園児や小中学校生との関りは隣接の特養に見えたときに特養入所者と一緒に交流している。ホームには団体、個人のボランティアが定期的に訪問している。職員は通勤や外出時に地区住民と言葉を交わすなど馴染みの関係作りを積極的にしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“利用者の生活歴を尊重し、地域の中でその人らしく暮らし続ける”と運営理念に掲げ、入居者一人ひとりが入居前と変わらない生活を継続できるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや日々のミーティングで自分たちが提供しているサービスを振り返り、理念に基づくものか話し合い確認している。職員は理念のコピーを持ち歩いている。入居者と関るときの姿勢を自らの言葉で語ることもでき、理念を意識しつつケアに取り組んでいる様子が窺われた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費を支払っている。活動（ごみ当番など）はできる範囲で参加している。近辺に幼稚園・保育園や小中学校はないが隣接の特養ホームに子供たちが来たときには出掛けて行き交流している。ホームには団体、個人のボランティアが定期的に訪問している。職員は通勤や外出時に住民と挨拶し、馴染みの関係作りに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は今回で2回目である。全職員参加で話し合いながら行った。自己評価はサービス内容や支援方法等を振り返り見直す機会となり、統一したサービス提供の再確認となった。		

グループホームさわらび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的には開催されていないが昨年未までに5回開いている。理念を遂行していくためには地域に開かれた事業所として幅広い立場の人たちの協力が必要なので会議に参加していただけるよう働きかけている。そのために会議の形態等についても検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村や広域関係者と連携を取り、情報提供したり、ケアマネジャー部会に参加し、現場のことやサービスのことなどを話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを毎月発行し、入居者の暮らしぶりを写真入りで伝えている。健康に関しては家族の訪問時や電話で伝えている。金銭や確認が必要な書類などに関しては家族の面会時にまとめてお願いしている。面会回数の少ない家族については郵送などによる確認方法を検討している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には必ず声をかけ、意向や希望などを伺うようにしている。法人全体で年一回、意向・満足度調査を行っている。アンケート結果を基に検討し運営改善に役立てている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は殆どない。職員の入れ替えはあったが、入居者一人ひとりの生活や心身状況をしっかりと引継いでいる。		

グループホームさわらび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
ひとり					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に職員は交代で参加している。研修後は資料を配布、ミーティング等で報告し話し合っている。学習係はテーマを決めて勉強会を毎月開いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諏訪圏域のグループホーム連絡会や講習会に参加している。同じ法人や関連法人内の5ヶ所のグループホーム（9ユニット）と意見交換や相互交流を行い、切磋琢磨している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを開始できるようにホーム側はできるだけ沢山の情報を家族やケアマネージャーなどから集め、その情報を基に馴染みやすい環境づくりを話し合った上で受け入れをしている。見学程度で体験利用は行っていないが現在までに大きなトラブルは起きていない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から調理の仕方や昔のこと、暮らしの工夫話を聞く機会が多い。入居者が持っている先人の知恵はととてもためになるという。		

グループホームさわらび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や入居者の何気ないつぶやき、行動などから希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者家族の意向、希望を基に職員間で話し合い本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回モニタリング、見直しをしている。また、主治医や家族などと話し合い変更を要する場合はあらたな介護計画を作成している。	○	介護計画の遂行状況確認のために、状態に変化がない場合や要望などが変わらない場合も毎月見直しをして欲しい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わって通院や受診の付き添い、外出や買い物の送迎など支援している。		

グループホームさわらび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の変更は入居者家族に充分説明し、納得していただいた上で協力医療機関の医師が主治医となっている。夜間の状態変化等は当直医師に対応してもらえるが、それ以外にも主治医とは“オンコール(呼べばすぐ来ること。待機していること。)”での連携が可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としては重度化した場合でも受け入れをしていく方針である。協力医療機関のバックアップもあり、重度化した場合や終末期の受け入れに関しては職員にも浸透しており方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないようにその人にあった声かけをしている。『○○様』と“様”で入居者に声を掛ける事で馴れ合いの関係や不適当な対応がなくなったと伺った。全ての職員は個人情報保護法を理解し守秘義務に徹している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおまかに決まっているがその日の様子や入居者の希望などで柔軟に変更している。一人ひとりのペースを大切に希望に添った支援を心がけている。		

グループホームさわらび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、片付け等入居者と一緒にしている。職員と一緒に食事をしながら楽しい時間となるよう雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているので変更する場合は入居者に相談をしている。入浴を嫌がったり、気が進まない入居者もいるが関わり方の工夫で気分良く入浴できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、花の水くれ、食事の準備など入居者が出来そうなところで力を発揮してもらっている。入居者が何を得意としているのか職員は把握しており生きがいにつながるよう場面場面でお祝い、感謝の言葉も伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設特養の車を利用して四季折々自然散策のドライブに出掛けている。入居者の要望に応じて回転寿司、諏訪湖遊覧、イチゴ狩りなどにも積極的に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵を掛けているが利用者家族に説明し理解を得ている。短時間であるが施錠を外している。鍵を掛けることの弊害、自由な暮らしの大切さを職員は十分に理解している。	○	見守りの仕方を工夫し、鍵を掛けない時間帯を更に増やすことを期待したい。

グループホームさわらび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは作成されており、年2回（春・秋）入居者参加の防災訓練を行っている。職員は避難経路を確認している。また、消火器の場所を知っており使い方も熟知している。非常災害時に関しては併設施設と連動しており、協働できるシステムになっている。	○	地区住民参加の防災訓練が実現するよう運営推進会議等で相談すると良いのではないだろうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日チェック表に記録している。献立は調理師免許を持っている職員が中心になって作っている。入居者の状態に応じた食形態を変えるなど個別支援している。栄養バランスなどについては併設特養の栄養士に見てもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット中央の広いスペースが食堂と居間に分かれている。居間にはテーブル付の空間とテレビを囲むソファコーナーがある。居間の棚には手作りのお雛様を含め何組かのお雛様がにぎやかに飾られている。暖かな日差しを受けながら思い思いの場所で入居者は三々五々集まり談笑したり本を読んでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や愛用品、家族写真などがあり、居心地よく過ごせるように工夫されている。条件付ではあるが入居者が個人のペットを飼うこともできる。		

※  は、重点項目。